



指1本からはじめよう!

曲を思い出して歌ってみる

知らない曲を弾くには、楽譜を読んだり、CDを参考に聞き込んだりして、曲のイメージをつかむための練習が必要ですが、知っている曲なら、すでに曲のイメージがある分、弾くための練習にすぐ取りかかることができます。第1回の課題曲は、昔懐かしいわらべうた『かごめかごめ』です。まずは、曲を思い出して、歌ってみましょう。歌う速さが一定になるよう、歌詞の下にイチニイサンシイと書いておきます。

か — ご め か ご め ★ か ご の な か の と り は ★
 イチ ニイ サン シイ イチ ニイ サン シイ イチ ニイ サン シイ

ひと呼吸分休もう!

い つ い つ で や る ★ よ あ け の ば ん に ★
 イチ ニイ サン シイ イチ ニイ サン シイ イチ ニイ サン シイ

つ る と か め が す べ っ た ★ う し ろ の し ょ う め ん だ — あ れ ★
 イチ ニイ サン シイ イチ ニイ サン シイ イチ ニイ サン シイ

どうですか?

知っている曲を歌うのは、そんなに難しくありませんね。

指1本で弾いてみる

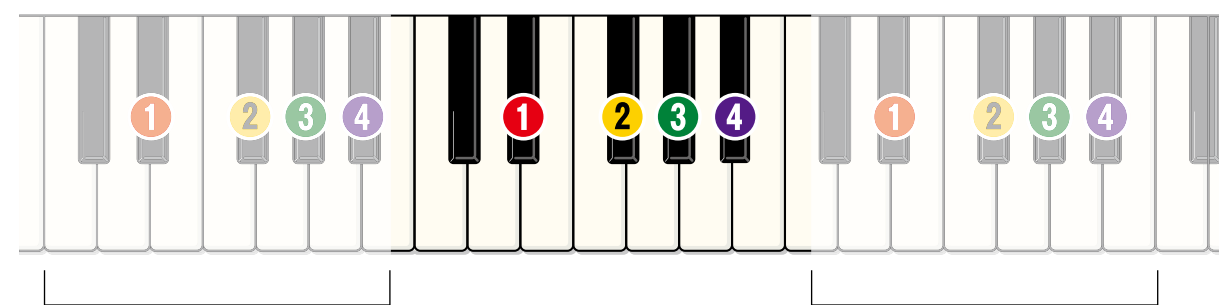
では、いよいよピアノを弾いてみましょう。実は、先ほど歌った『かごめかごめ』は、ピアノの黒鍵だけで弾くことができます。しかも、たった4つの黒鍵を使うだけで曲になるんですね。どの黒鍵を弾けばよいのかは、歌詞の上に色のついた数字を振っておきましたので、それを見ながら『かごめかごめ』を弾いてみましょう。

レッスン曲1 かごめかごめ わらべうた

3 3 4 3 3 3 3 3 3 3 2 2 3 3 2 1
 か — ご め か ご め ★ か ご の な か の と り は ★

3 2 3 2 3 3 2 1 3 3 3 4 3 3 3
 い つ い つ で や る ★ よ あ け の ば ん に ★

3 2 2 3 2 2 3 3 1 3 3 3 3 3 4 3 2 3
 つ る と か め が す べ っ た ★ う し ろ の し ょ う め ん だ — あ れ ★



左側の低い音でも弾いてみよう

右側の高い音でも弾いてみよう

無理せず楽譜とつきあうために

1

COLUMN

楽譜が苦手。
楽譜が読めない。
だからピアノが弾けない!

よく耳にする声です。

たしかに、楽譜を開くと難しそうな音符がたくさん並んでいて、これらを全部覚えるなんてとても無理……と思ってしまうのも、よくわかります。中には、「学校では、絶対に楽譜の読み方を教わっていない!」と言い張る人もいます。

でも、小学校の教科書には必ず楽譜が載っていますし、音楽の授業でも習っているはずです。さらに付け加えるなら、「楽譜が読めない」と言い張る人の中には、カラオケがプロ並みにうまい人も少なくありません。

でも、これって何だか変だと思いませんか?

そこで、このテキストでは、そういった楽譜アレルギーの皆さんでも、楽しみながらピアノが弾けるような練習方法を紹介しています。

それは、従来のように、楽譜を覚えてからピアノを弾くのではなく、先にピアノが弾けるようになってから楽譜を覚えるという、今までとはまったく逆の順番で進めていくレッスンです。

まず弾いてみて、その後から自分で弾いた音を楽譜で確認し、覚えていくのです。この方法だと、無理なく少しずつ楽譜が読めるようになりますから、どうか最初から「できない!」とあきらめずに、ぜひ一緒にレッスンしましょう。

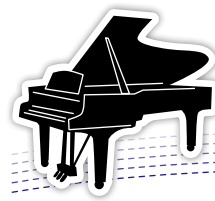
しかも、今回のレッスンで覚える音符はほんのわずかな数ですから、実は「九九」や「アルファベット」よりもずっと簡単なんですよ。



『戦場のメリークリスマス』

～音符と仲よく～

黒鍵で曲が弾けるようになったら、次は白鍵でも曲が弾けるようにチャレンジしてみましょう。美しい旋律に合わせて、自然にステップアップしていきます。



コードは怖くない！

コードの仕組み

コードの表記はアルファベット(アメリカ・イギリス)の音名をしますので、音名をうる覚えの人は、まず14ページに戻っておさらいをしておきましょう。

コードとは和音のことで、2音以上の音が同時に鳴っている状態です。この音の積み重ねにはルールがあります。コードはそのルールにのっとって表記されており、コードの名前を**コードネーム**といいます。ここでは、最も基本的なコード、Cについて見てみましょう。

コード C

C

フィフス(第5音)
サード(第3音)
ルート(根音)

C (ド) E (ミ) G (ソ)

コードCは、C(ド) E(ミ) G(ソ)の3音からなっています。Cを1番目として、鍵盤を数えたとき、Eは3番目、Gは5番目の音となっていて、この1番目の音を**ルート(根音)**、3番目の音を**サード(第3音)**、5番目の音を**フィフス(第5音)**といいます。また、単に1度、3度、5度という場合もあります。

クラシックでは、Cをツェーといったり、Gメジャーをト長調というように、音名に関する用語をドイツ語や日本語で読むことが一般的ですが、コードネームはもともとアメリカのジャズ界で生まれたため、英語読みします。

とまあ、難しいことは抜きにして、「コードは1、3、5の順番に音を重ねる」と理解するだけでもだいぶ楽になります。この**3つの音**できている和音を、**三和音**といいます。

『ハッピー・バースデー・トゥー・ユー』で使うコードを覚えよう

コードの基本がわかったところで、今回の課題曲『ハッピー・バースデー・トゥー・ユー』に出てくるほかのコードも見てみましょう。125ページを見ると、先ほど出てきた、コードCのほかに、FとB \flat のコードもあり、3つのコードがわかれば大丈夫そうですね。1、3、5番目の音がわかりづらいときは、鍵盤を見ながら順番に数えてみるとわかりやすいと思います。また、この曲はシにフラットがつくへ長調(Fメジャー)というキーなので、B \flat のコードもシにbがついています。

F

F

フィフス(第5音)
サード(第3音)
ルート(根音)

F (ファ) A (ラ) C (ド)

B \flat

B \flat

フィフス(第5音)
サード(第3音)
ルート(根音)

B \flat (シ \flat) D (レ) F (ファ)

そのほかに、C7というコードもあります。これは、音を3つ重ねてできる三和音に、さらに1音足した**四和音**というコードです。「シーセブンス」と読み、Cのコードに7番目のB(シ)の音を半音低くしたB \flat (シ \flat)を足すことになっています。セブンスのコードは、緊張感のある不安定な響きで、次のコードへ落ち着きたい(C7の場合はFへ)という特徴があり、曲の締めくくりの直前などでよく使われます。

C7

C7

セブンス(第7音)
フィフス(第5音)
サード(第3音)
ルート(根音)

C (ド) E (ミ) G (ソ) B \flat (シ \flat)